



よう らん
揺籃

揺籃(ようらん)とは「ゆりかご」のことです。本校の校歌の一節に「霊の揺籃 わが母校」とあります。中条校は、生徒の皆さんにとって精神(魂)をすこやかに育て「ゆりかご」でありたいと思っています。

■3学期始業式

～副校長のあいさつより(概要)～

事故等無く新たな年を迎えられたことが何より。残りの高校生活は、(三学期制であるため)、1年生があと7/9、2年生が5/9、3年生は1/9となった。3年生の顔を見ることが出来るのもあと20日。3年生に廊下で出会ったらマジマジと顔を見て記憶にしっかり残してほしい。

短い3学期、そしてまとめの3学期の始まりに際し、3年生の宮沢くんをお願いをして書き初めを書いてきてもらった(左の写真)。これは「三本の矢」で有名な毛利元就のことは、城の石垣を積む作業がうまく進まなかったときに書かれたもの。この字が示すとおり、百万の人々(中条校全校生徒)が心を一つにして、このまとめとなる学期を共に過ごし、充実した一年の締めくくりとしてほしい。また、実はこの「百万一心」という字は、下の写真のとおり、「一日一カー心」とも読むことができる。“一日一日を大切にし、力を一つのことに注ぎながら気持ち(心)を集中させる”そんな深い意味もある。宮沢くんが書いてくれた「百万一心」を廊下に掲示しておく。その宮沢くんの書を見て、意味を思い出してくれたらうれしい。



■「中条～友情・愛情・向上～ミーティング」のまとめ

前号で紹介したとおり、昨年の暮れ12月16日に「中条～友情・愛情・向上～ミーティング」と銘打って、生徒と先生が一緒のグループになって話し合いを行いました。その話し合いの結果がまとまりましたので、その一部をここに紹介します。

【☆中条校の良いところ・自慢できるところ】

- ・授業中質問しやすい雰囲気がある
- ・行事が多い
- ・良い意味で周りの人に気兼ねなく自分を出すことができる
- ・森林の日や大豆作りがある
- ・生徒と先生の距離が近い
- ・盗難がない

【☆中条校をより良くするためには】

- ・エアコンをつける
- ・ランチルームをつくる
- ・他校にない部活やカリキュラムを導入する
- ・地域の良さを自分たち(生徒)が外へ発信する機会をつくる
- ・毎日「ありがとう」を三回言う

等々、素敵なアイデアがたくさん出されました。次年度、生徒が出してくれたアイデアを何か一つ実践したいと職員で考えています。



■「中条子どもプラザ遊び隊」の活動を振り返って

中条小学校の放課後子ども教室のお手伝い(遊び相手)を一年間続けてきた「中条子どもプラザ遊び隊」のメンバーが活動を振り返りました。

- ◇毎回プラザに来るのが楽しみでした。どうやったら子どもが笑顔になるのか、またストップをどうやってかけたらいいのか少しずつわかってきました。
- ◇この活動に参加して自分の中に変化が起きた。積極的になれた気がする。すべてはこの活動に応募するときに出した勇気から始まったように思う。
- ◇子どものことを知ることができた。どんな遊びが好きなのかわかった気がする。楽しかった。
- ◇小学生の元気がすごすぎて高校生はついていくのがたいへんだった。自分には下の兄弟姉妹がいないので、最初は遊び方がわからなかったが、徐々に距離感がつかめてきた。大人になった時に役立つと思う。

■国語の授業の一環として”詩吟”の勉強をしました!

12月26日(月)長野岳風会 塚田奈保子師範をお招きし”詩吟教室”を開催、1年生が”詩吟”の勉強をしました。漢詩や吟詠についての説明や杜甫の『絶句』を使って師範の後について吟詠しながら吟符を学ぶなど、わかりやすく教えていただきました。特に漢詩の押韻については、上杉謙信と武田信玄の「川中島の戦い」を詠んだことで有名な、頼山陽の『不識庵 機山を撃つ』の句に題す』を、現代語・ラップ調にしたものを皆で吟詠し、楽しく学ぶことができました。吟詠で出す声も慣れてくるに従って大きな声になり、楽しそうに吟じる生徒達の姿が印象的でした。



■道路拡幅工事に伴い、石碑を移設中です!

昭和50年3月、農業科が閉科することになり、西部農学校(旧中条高校)を卒業され、昭和34年～昭和55年まで長野県知事を務められた西沢権一郎さん揮毫で「西農魂」と刻まれた記念碑が建立されました。来年度にかけて中条校前の道路が拡幅されることとなり、駐車場の東へ移設することになりました。石碑の裏には、当時の交友会長の書で、「今日までわれわれを長く培った西農魂は本校の伝統を象徴するものである」と刻まれています。

